2025 年 6 月 12 日

狭山市長 小谷野剛様

入曽まちづくりの会
[redacted]

要望書

市長始め市職の皆様におかれましては、市政発展のためにご尽力下さり感謝申し上げます。

2025 年 3 月 27 日に入曽周辺整備事業のまちびらきが行われ、3 月 29 日から入曽駅橋上駅舎と東西自由通路が供用開始されました。

それから 2 ヶ月の間、入曽まちづくりの会は、駅周辺の状況確認を続け、駅利用者や地域住民の様々な声を聴かせていただきました。「ロータリーが整備され、送迎がスムーズになってよかった」、「橋上からきれいな景色が見えてうれしい」など前向きな声がある反面、「遠くなった」、「不便になった」という声が多く寄せられています。また、東西自由通路の4%の勾配に車いす利用者や高齢者が苦労する姿も何度も見ました。実際に現地に継続的に立ってみることでわかることがたくさんありました。具体的に入曽まちづくりの会が駅利用者から聴いた感想や意見、要望は、別添にて示していますのでご一読ください。

出来上がってしまった駅舎を変えることが難しいのは承知の上です。利用者が真に喜ぶ駅になるよう、幅広い立場で知恵を出し合い、対策を講じていけたら幸いに存じます。

入曽まちづくりの会は、以下の通り要望いたします。

記

【要望事項】

1. 県と連携し、県道入曽停車場線の自動車通行抑制策を講じ、歩行者・自転車の安全性を確保し、同県道と東口駅前広場との歩行者の直接往来を可能にすること。

（理由）　入曽駅橋上駅舎・東西自由通路供用開始以降、県道入曽停車場線は駅南側と駅東口を往来する歩行者の主要な往来経路になっている。ここの歩行者は駅南側に住む人に加え、入曽地域交流センターや入曽地域包括支援センター、眼科クリニックを少しでも短距離でまたは少しでも自動車交通量が少ない経路で利用したい人が含まれ、重要性が高い経路である。

一方、同県道は入曽駅周辺の抜け道として通過する自動車も一定数存在しており、さらには、標識や看板表示によって禁止されているものの、東口駅前広場に侵入せず駅利用者を送迎する自動車の路上駐車も発生している。したがって、道幅の狭い道路で歩行者・自転車・自動車の輻輳が生じている危険な状況は依然として継続している。

東口駅前広場と同県道とは隣接しているにもかかわらず、安全対策を目的とした市の設計により、その境界は腰ほどの高さのガードパイプ等で仕切られ、この間を往来する歩行者は市道B299 号線を経由した迂回を強いられている。この迂回による時間的または体力的な負担にストレスを感じる利用者が多く、身体的に健康な利用者でも困惑しているところ、身体障害者や足腰が弱い高齢者で自分の力で外出しようと日々努力している利用者にとっては、この負担が如何に絶大であるかは想像に難くない。一部の利用者はガードパイプ等を無理やり跨ぐなどの行動も見せており、県道路面への転倒・自動車との接触といった潜在的な危険性も新たに生じている。通り抜けを禁止する市の看板設置後も、こうした危険の抜本的な解消には至っていない。駅改札口の北への移動、橋上化、比較的長大な東西自由通路の存在といった変化で駅南側からホームへの経路が長くなってしまった利用者にとって、少しでも短い経路を選択したいという行動心理は自然なことである。市の意図した経路誘導や交通法規の遵守はもちろん理想ではあるが、それに反したこれらの行動を一概に批判することもできない。

これを受けて本要望は、まずガードパイプ等を跨げない高さにかさ上げすることを求める（県道入曽停車場線の歩行者の安全が確保されるまでの一時的な対策）。次にすべての根本的な原因である県道入曽停車場線の自動車交通量を一方通行や時間規制など自動車通行抑制策を講じることで低減させ、歩行者・自転車の安全を確保することを求める。そのうえで、東口駅前広場と県道入曽停車場線の境界のガードパイプ等を一部除去し、駅南側利用者の負担になっている迂回の解消を求める。本要望は、道路管理者である埼玉県ではなく、各交通動線の変化をもたらした入曽駅周辺整備事業の原因者である狭山市に第一義的な責任があると考え、市に責任を持った対応と県との適切な連携を求める。

また、魅力ある駅前商店街にするためにも、歩行者・自転車が安心して通過・滞在できる道路空間の確保や歩行者の回遊性改善は不可欠であり、本要望の実現は、駅利用者の安全面や不便解消だけに留まらず、まちの賑わいに波及する点も強調しておく。

2. 入曽駅西口自転車駐車場に替わる恒久的な駐輪施設を早急に検討・整備すること。

（理由）　入曽駅西口駅前広場の整備に伴い、入曽駅周辺で最大規模の市営第 11 自転車駐車場（旧西口駐輪場）は閉鎖され、入曽駅西口自転車駐車場（新西口駐輪場）が開設された。新西口駐輪場は、駅からの道のりが 300m 強と遠くて不便であるだけでなく、自動車の交通量が多く大型車も通過しスピードも出ている県道 8 号川越入間線を交通整理のない横断歩道で渡る必要があったり、同県道の歩道が極めて狭く舗装面が平坦でなく不安定であり、利用者にとって危険な立地である。新西口駐輪場は、入曽駅周辺整備事業のまちびらき後に需要や利用者動線が変わる可能性があることから暫定扱いであり、入曽まちづくりの会が求める「入曽駅西口駐輪場に関する安全対策の要望」（2023 年 9 月 20 日提出）の要望内容の大部分が実現しないまま今日に至っている。

本要望は、まちびらきを経て駐輪場の需要や利用者動線の調査が可能な状況が整ったことから、一日も早くこの駐輪場の暫定的な扱いを解消し、駅周辺に安全で利便性の高い代替駐輪場整備を求めるものである。なお、周辺の宅地や農地に影響しないよう整備場所は可能な限り駅に近い公有地や鉄道用地を優先して検討し、駐輪場の需要調査や仕様検討においては、駐輪場利用者にオープンな形で進めることを強く求める。

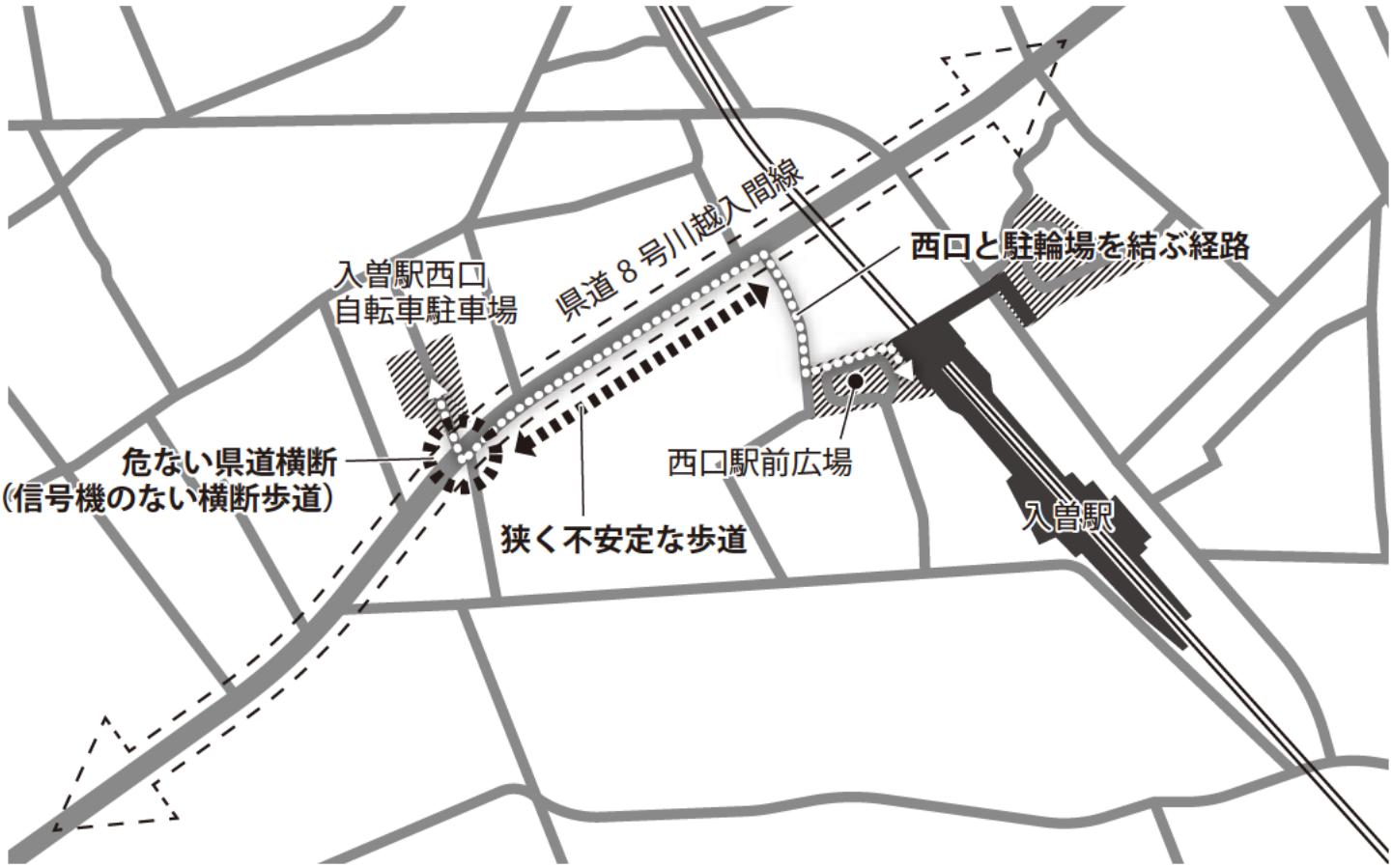
以上

なお、本要望に対する検討結果は文書にてご回答ください。

お忙しい折とは存じますが、実現のために早急にご検討、善処していただきたくお願い申し上げます。

添付図 1 東口駅前広場と県道入曽停車場線の位置関係と歩行者経路

添付図 2 東口から各施設への経路



添付図３ 西口から駐輪場までの経路

駅利用者から聞いた感想・意見・要望

（2025 年 3 月 29 日～6 月 6 日に聞いたことの一例）

☆　足の悪い主人と一緒の外出なので、以前より 20 分早く家を出なければならない。（※まちづくりの会注釈：ホームに下りてからも 1 本逃すこともあると訴える高齢者の声は切実です。）

☆ この坂を自分でこいで歩くのは無理だ!!」「なんでこんな造りになってしまったのか？」と「何とか出来ないのか？」（東西自由通路の勾配について、自走式車いす利用者）

☆　入曽停車場線を安心して歩ける道にして欲しい。

☆　ガードパイプを無くして、入口への距離を短縮してほしい。

☆　今までの入口から入れるようにしてほしい。（※まちづくりの会注釈：この声は多い）

☆　えのき眼科や包括支援センター、入曽地域交流センターが遠くなり、不便になった。